

## 2018年12月6日 上智大学でキックオフシンポジウムを開催

平成30年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」への採択を受け、本学、お茶の水女子大学、静岡県立大学の国内連携3大学が主宰し、米国連携大学を招いてのキックオフシンポジウムを開催しました。

室伏さきみ子お茶の水女子大学長らによる開会挨拶のあと、本事業に関わる日本側3大学間の協定締結式が行われ、曄道佳明本学学長が、本事業の意義について説明しました。続いて静岡県立大学の鬼頭宏学長（本学名誉教授）による基調講演が行われ、「人間の安全保障と多文化共生」を軸とした課題発見型プログラムの展開と、COILを活用した先導的な教育プログラムの開発、ならびに国・地域や設置形態を超えた新たな大学間協力について抱負を述べました。

その後、米国教育協議会(ACE)による、米国でのCOIL活用・促進に関する講演、難民キャンプなど周縁地における高等教育機会提供の取り組みを行っているJesuit Worldwide Learning (JWL)

による事例紹介がおこなわれました。JWLとの連携の中で大学が果たしうる役割を示唆しながら、オンライン教育において必要とされる創造性や、地域に根ざした研究が持つ重要性が語られました。JWLとは、本学とも本事業を通じた連携が見込まれています。第二部のパネルディスカッションでは、国内外の連携大学からCOILを使った教育プログラムの計画や事例の発表がおこなわれました。Marquette Universityの取り組みやGlobal Health分野での日本との連携について、静岡県立大学は海外の看護教育で広く取り入れられているオンラインを使ったシミュレーション教育、お茶の水女子大学とVassar Collegeとの間で行われているオンラインによる交流授業、等について発表と意見交換がありました。

最後に、本学の太塚寿郎学務担当副学長が「COILは、学生の持つ潜在的能力を実現へと導くものであり、若者の将来に積極的に投資していきたい」と語り、シンポジウムを閉幕しました。



JWL Dr. McFarlandによる事例紹介



国内連携3大学学長により  
連携協定が締結された



パネルディスカッション「COILを活用した  
日米大学間交流の促進と今後の発展性」



# COIL

C O L L A B O R A T I V E  
O N L I N E  
I N T E R N A T I O N A L  
L E A R N I N G



# 上智大学

SOPHIA UNIVERSITY

## 上智大学における 国際協働オンライン学習の可能性

学務担当副学長 文学部英文学科教授 大塚寿郎

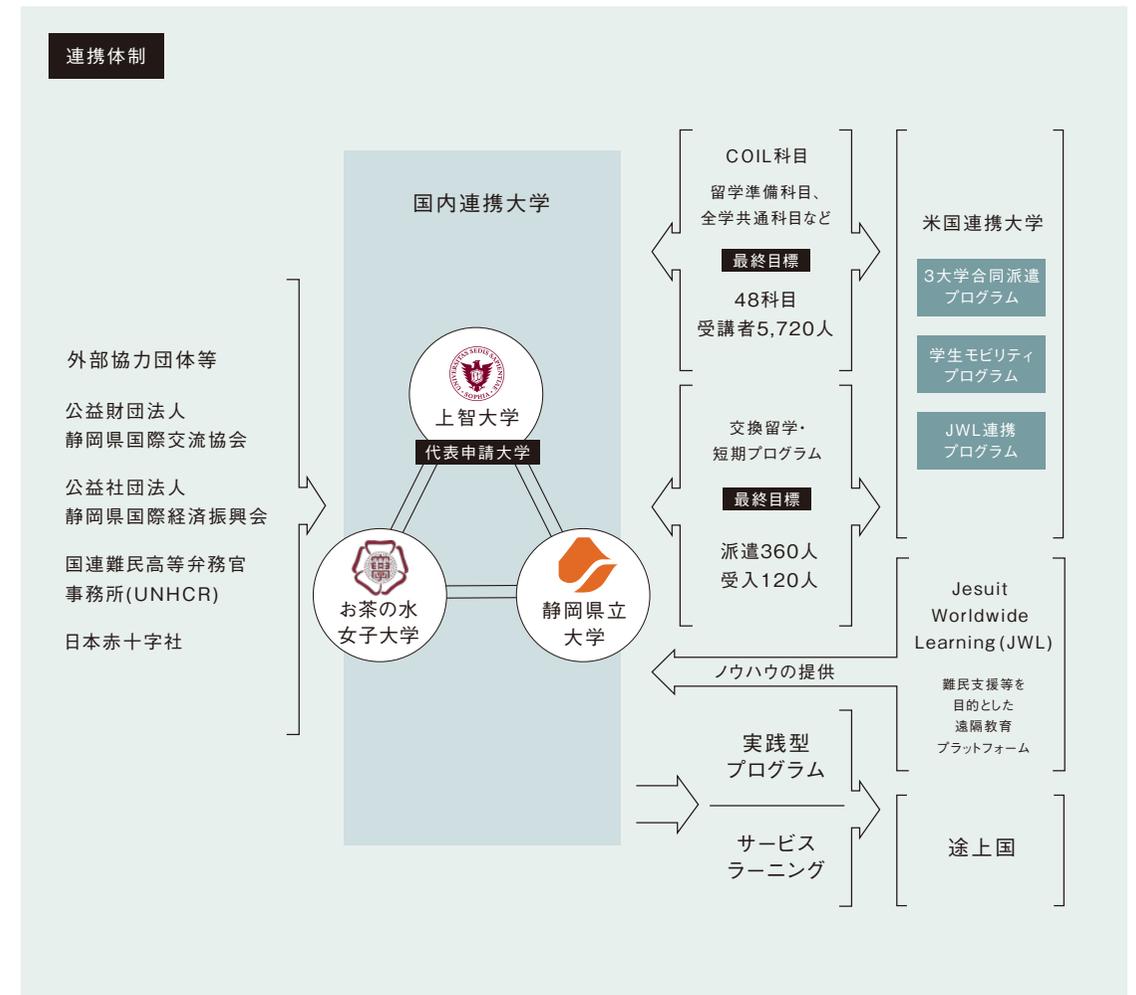


今日の国際高等教育では、留学等の伝統的な学生移動の促進に加えて、オンライン教育に代表されるような、教育発信手法と学び方の多様化を進めることが課題となっています。本事業は、日米および第三国の多様な背景を持つ学習者に国際協働オンライン学習の機会を提供しながら、大学全体でこのような新たな国際高等教育の経験を積み、広く展開していくことを目的としています。

「人間の安全保障と多文化共生に係る課題発見型国際協働オンライン学習プログラムの開発」という事業名には、立ち上げにあたっての願いが込められています。日米の学生が、「人間の安全保障」や「多文化共生社会」の実現に伴う課題に自ら気づくことを願って、「解決」ではなく「発見」という言葉を入れています。「学習プログラムの開発」としたのは、高額な設備への投資ではなく、汎用性のある装置で運用できる教育プログラムの開発を軸とし、日米共同で開発したプログラムや遠隔教育のノウハウが「人間

の安全保障」に必要な、教育格差の解消に貢献することを期待しているからです。難民などへのオンライン教育支援で実績のあるイエズス会組織、Jesuit Worldwide Learning (JWL)との連携も計画しています。また、必ずしもこのテーマと直結していませんが、本事業の取組が日米の学生間の交流を促し、文化の多様性の理解の一助となることを願っています。そのために、オンライン授業での交流だけでなく、国内3大学の協力による国内循環型の米国学生受入体制も整えます。

COILを活用してより多くの学生に国際的な学習機会を提供すること、またJWLとの連携のもとで高等教育へのアクセスが限られている人々に機会を提供し、更に日米の学生・教職員がその経験から学ぶことは、本学のミッションとも深く結び付いています。今般、COILに関する情報共有のためのパンフレットを作成しました。多くの方々が本事業に関心を持ち、積極的に参加してくださることを願っています。



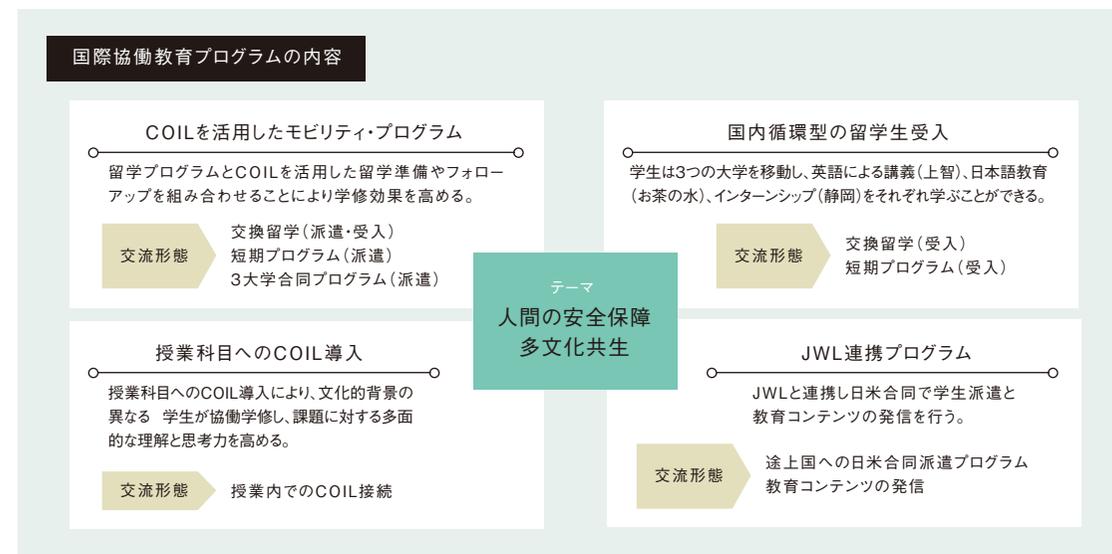
## 事業案内

「人間の安全保障と多文化共生に係る課題発見型国際協働オンライン学習プログラムの開発」は平成30年度「大学の世界展開力強化事業—COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援」に採択され、上智大学、お茶の水女子大学、静岡県立大学の共同事業として開始されました。

本事業は、米国連携大学との講義科目での接続、国内3大学の連携、留学プログラムの充実化、JWLと連携した第三国への発信、という4つの取り組みにおいてCOILを活用するものです。COILを導入することで、①経済的理由や大学の履修カリキュラムの関係上、留学機会が得にくい学習者に教育機会を提供すること、②文化的背景の異なる

多様な学習者が協働学習を行うことにより、課題に対する多面的な理解や複眼的な思考力を習得すること、③相手先からの映像や双方向コミュニケーションを利用した効果的な学びが可能になることを目指します。

また様々な格差が広がる現代社会において、教育機会の拡充を担保し、従来の形態では協働することが難しかった学習者が協働学習を通じ多角的に学ぶことを可能とします。本事業ではそれを、人間の安全・安心な暮らしや健康を考える「人間の安全保障」と、多様性の理解や複眼的思考を基盤とした「多文化共生」を軸に課題発見型プログラムとして展開していきます。



## お茶の水女子大学

1875年に女性のための日本初の高等教育機関「東京女子師範学校」として創設された。世界で活躍する次世代の女性リーダーの育成をミッションとし、少人数制による高度な専門教育や文理を跨いだ教育研究を特色としている。文教育学、理学、生活科学の学部と大学院課程を設置している。本事業では、主にVassar Collegeと連携してCOILの活用に取り組む。

## Boston College

<https://www.bc.edu/>

📍マサチューセッツ州チェスナット・ヒル(-14時間)  
 スクール/カレッジ構成:Arts and Sciences, Law, Advancing Studies, Social Work, Management, Nursing, Education and Human Development, Theology and Ministry

イエズス会系の名門総合大学。上智大学とは1992年に協定を締結して以来、活発な学生交換をおこなっている。リベラルアーツ教育の伝統に基づいたMorrissey College of Arts and Sciences、School of Managementをはじめ、教育、看護分野も人気が高い。

## University of Portland

<https://www.up.edu/>

📍オレゴン州ポートランド(-17時間)  
 スクール/カレッジ構成:Arts & Sciences, Business Administration, Education, Nursing, Engineering

学生数約4,000人と小規模ながら、約60の学位プログラムを有する、同地域の有力な総合大学。STEM分野で特に高い評価を受けている等、教育の質に定評があり、多くのフルブライト奨学金受給者を輩出していることでも知られる。

## 静岡県立大学

静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学を改組統合して、1987年に設置された県立大学。薬学、食品栄養科学、国際関係学、経営情報学、看護学の分野で学部・大学院を設置しており、全国有数の「健康長寿」県を支える人材育成や、豊富な地域連携事業に特色を持つ。COIL事業では国際看護をはじめとした授業での連携を進めていく。

## Loyola Marymount University

<https://www.lmu.edu/>

📍カリフォルニア州ロサンゼルス(-17時間)  
 スクール/カレッジ構成:Liberal Arts, Business Administration, Communication and Fine Arts, Law, Education, Film and Television, Science and Engineering

ロサンゼルス中心部にキャンパスを構え、法学やビジネスが米国内で高く評価されている。College of Communication and Fine Arts、School of Film and Televisionといったメディア・芸術分野でも有力なプログラムを展開している他、教育活動におけるICT活用でも先進的な取り組みを行なっている。

## University of San Francisco

<https://www.usfca.edu/>

📍カリフォルニア州サンフランシスコ(-17時間)  
 スクール/カレッジ構成:Arts & Sciences, Education, Law, Management, Nursing & Health Professions

1975年以来の協定大学で、長年に渡り双方向で活発な学生交流が行われている。5のスクール/カレッジを通して、230を超える多様な教育プログラムを提供している。米国内でも特に在学生の人的多様性や留学生の割合が高いことで知られる。

## Seattle University

<https://www.seattleu.edu/>

📍ワシントン州シアトル(-17時間)  
 スクール/カレッジ構成:Business and Economics, Arts and Sciences, Education, Nursing, Science and Engineering, Law, New and Continuing Studies, Theology and Ministry

シアトル中心部に位置する総合大学。1891年にイエズス会により設立された。120以上の教育プログラムを提供しており、ビジネス、法学、理工分野の他、産学連携や環境に関する取り組みにも強みを持つ。上智大学とは40年以上の交流の歴史があり、最も活発な学生交換先のひとつ。

## Vassar College

<https://www.vassar.edu/>

📍ニューヨーク州ポキプシー(-14時間)  
 1861年設置の名門リベラルアーツ・カレッジ。

学生数は約2500名で、COIL事業の国内連携大学である、お茶の水女子大学の協定校。Africana StudiesやEnvironmental Studiesといった学科横断型・学際的なプログラムの提供にも豊富な経験を持つ。

## The University of North Carolina at Charlotte

<https://www.uncc.edu/>

📍ノースカロライナ州シャーロット(-14時間)  
 スクール/カレッジ構成:Business, Arts + Architecture, Education, Computing and Informatics, Health and Human Services, Liberal Arts & Sciences, Engineering

1946年設立の州立研究大学で、約30,000人が在籍する同地域最大の大学。学士から博士までで160以上の学位課程を持ち、過去10年で学生数が大幅に上昇している。また100%遠隔教育で修了できる課程も提供している。本学とは交換留学に加え、語学と理工分野の短期学生派遣プログラムを実施している。

## Marquette University

<https://www.marquette.edu/>

📍ウィスコンシン州ミルウォーキー(-15時間)  
 スクール/カレッジ構成:Arts and Sciences, Business Administration, Communication, Dentistry, Education, Engineering, Management, Health Sciences, Law, Nursing

中西部のトップ大学のひとつ。9つの分野で学位プログラムを持ち、それぞれ高い評価を得ている。看護分野でオンラインと途上国への学生派遣を組み合わせたハイブリッド・プログラムを実施する等、新しい教育プログラムの実施にも注力している。

## University of California, Davis

<https://cpe.ucdavis.edu/>

📍カリフォルニア州デービス(-17時間)  
 スクール/カレッジ構成:Agricultural and Environmental Sciences, Biological Sciences, Engineering, Letters and Science, Nursing, Management, Education, Law, Medicine, Veterinary Medicine,

名門の州立研究大学で、生物学や医学をはじめ各分野で高い評価を得ている。本学とは、「Continuing and Professional Education」での語学と理工分野の短期学生派遣プログラムで連携している。

## Gonzaga University

<https://www.gonzaga.edu/>

📍ワシントン州スポケーン(-17時間)  
 スクール/カレッジ構成:Arts & Sciences, Business Administration, Education, Engineering & Applied Science, Law, Nursing & Human Physiology, Leadership Studies

理工、看護などに強みを持つ、イエズス会系の総合大学。学生の派遣留学など国際交流にも力を入れており、本学とは1991年より交流関係にある。大学スポーツが盛んで、日本人として初めてNCAAバスケットボール・トーナメントに出場した八村選手の在籍大学としても知られる。

## 国際教育学講義におけるCOILの取組み

教育学科開講科目「国際教育学 II」／教育学専攻開講科目「国際教育学演習」  
総合人間科学部教育学科教授 杉村美紀



今回行った取り組みは、アメリカの大学からビデオクリップをお送りいただき、それを上智の学生が拝見して感想を述べたものを返送するビデオレター交換です。対象校はイエズス会の大学でもある Loyola Marymount Universityで、同大学心理学科のJennifer Abe先生が、同大学から2018年3月にTomodachiイニシアティブという国際交流プログラムを利用して日本を訪れ、上智も訪問してくださいました。先方からのビデオ自体は5分ほどの決して長いものではありませんが、そこに込められた学生たちの笑顔と声からは、普段学んでいるテキストや資料にはない、人と人の交流が生む様々な感情や思いを読み取ることが出来ました。私が担当している学部の国際教育学の授業で視聴してもらったところ、約120名の受講生のなかからは、普段なかなか海外の人と交流がないため、こうした機会があるのは良いという意見や、

「国際交流は相手の文化に気づくだけでなく、自分の文化を見直す機会にもなる」というコメントになるほどと思ったという意見、さらにアメリカの学生の顔がとても生き生きとしていて印象的だったという感想が寄せられました。また大学院の国際教育学演習では、この秋学期にGlobal Citizenship Educationをテーマに実践例の検討や課題を議論していたこともあり、ビデオクリップを見もらった後、こうした国際交流のプログラムがGlobal Citizenshipの育成にどのような意義をもつかについて院生たちが議論を行い、その様子をビデオに収録して先方にお送りしました。上智側ではCOIL担当のスタッフが撮影と編集を手伝ってくださったお蔭で、機械操作に苦手な私でも、普段通りに授業を進めることができました。今後はこのビデオレターをきっかけに、先方の学生さんたちとの共同ゼミを展開できればと楽しみにしています。

Jennifer Abe, Ph.D. Loyola Marymount University

I appreciated how their observations reflected the power of immersive programs to stimulate a curiosity, openness, and hunger for more such experiences. The difference between visiting a place and spending extended time in a place to get to know the people and culture makes a huge difference in how one perceives and experiences a different culture. The emphasis and importance of developing friendships also came through in your students' reflections. I think that friendship

serves as an important mediator of culture, even though we don't often think of immersive education impacts in terms of friendships that develop (they become more like "icing on the cake" as we say in the U.S.). But, when we really get to know others and feel connected to them, their experiences and culture cease to become abstract ideas or descriptions, but realities that affect people we care about, and values that have shaped who they become.



LMUビデオメッセージのディスカッションに参加した感想

総合人間科学部教育学科 4年 木村規頼

この度のLMU学生から送られてきたビデオを視聴しながらのディスカッションでは、「国際交流」、「実経験」をキーワードに議論が弾みました。大変国際色豊かな院生（参加者の半数以上が海外出身）とのディスカッションは大変刺激的であり、かつ院生ならではの専門性を活かした意見を伺うことが出来ました。

LMU学生からのビデオメッセージで印象に残っていることは、多くの学生が来日したことで、今まで知らなかった日本のことについて多く学び、感じ、日本のことを好きになった点です。「百聞は一見に如かず」という諺があるように、どんなに日米に関する情報が流れている今日でも、実際にその国を訪れ、現地人と触れ合い、その国の経済や文化などについて学ぶことの方が、短期間でも学生1人1人の経験として大きなインパクトがあると思います。

事実、私自身も1年次にKAKEHASHI PROJECT (TOMODACHI PROJECT同様の日米交流推進事業)に参加した経験はその後の学生生活に強く影響しており、以来、学内の海外プログラムに数回参加しました。自身の意見に対して、高校における国際交流が生徒に与える影響について研究している院生からの意見も大変興味深かったです。

総合人間科学研究科教育学専攻  
(博士前期課程1年)

KAMOSHI KATHERINE

We had a chance to see a video message from Loyola Marymount students who came on the Tomodachi Project. Hearing how the students felt about the project created a lively conversation about how communicating with other cultures affected their perceptions of Japan and beliefs of being abroad. COIL is one way to help students learn similar concepts; to learn about the people in other countries and what/how they learn. Seeing the diversity of the Project participants and their various reactions to their time here in Japan, also showed themes which we discussed as a class. One theme was how even if people may come from different backgrounds and may not be able to communicate fully in the same language, they found other ways to connect. COIL is an extension of that concept, how to teach students to find commonalities and learn from the diversity of students and educators around the world.

## 開発途上国の教育課題を知る

### —Facebook活用によるCOIL実践

教育学科開講科目 「国際教育開発学 II」

総合人間科学部教育学科教授 小松太郎



総合人間科学部教育学科開講科目である「国際教育開発学」では、ここ数年、海外の大学とオンラインでつないで、上智生と海外の学生が共に学ぶ試みを行っている。上智生は、この機会を通じて途上国教育開発の課題について多様な見方を知り、自身の考えを英語で表現する力を養っている。2019年度は、COIL事業の一環として、米国ロサンゼルスに位置するLoyola Marymount University (以下、LMU)と連携し、Facebookを活用した協働学習を試みた。

協働学習セッションでは、参加学生が、アフリカの教育支援に関わっているNGO職員による講義を聞き、その内容を基に「教育のアクセスと質」「教育と持続可能な開発」「国際教育協力のキャリア」についてセッション用に作成されたプラットフォーム

上で意見交換を行った。上智とLMUの担当教員も参加し、学生の意見にフィードバックを行なった。意見交換中、日本の子どもの貧困化や米国での教師のストライキについての言及があり、学生たちは、教育のアクセスや質が程度の差はあれ世界的な課題であることを認識していた。

COILは様々な形態で実施することが出来る。チャット機能を使用した交流は、英語を母語としない上智生にとって意見を表明し易い形態と言える。このような交流を経た後にオンタイムの交流を行うといった形もありうる。今後は、南アジアや中東、アフリカの大学とCOILを進める予定である。これらの地域は、学生にとっては容易には行き難い国である。こういった国々の若者と交流・協働出来るのも、COILの利点であると言える。

Bernadette Musetti, PhD

Associate Professor Urban & Environmental Studies

Director of Liberal Studies Loyola Marymount University

The COIL collaboration with Sophia allowed LMU students a unique opportunity to examine educational issues on a global level and from an international development perspective. Students gained important cross-cultural insights into multiple issues discussed as part of our collaboration, including for example educational challenges in

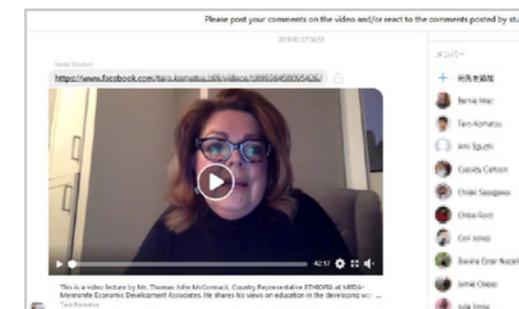
the U.S., Japan, and within various Asian and African countries. Our open and diverse discussions across our classes and with an international development expert in Ethiopia were highly interesting and edifying. I welcome further COIL collaborations for the mutual benefit of our students.

総合人間科学部教育学科 3年 笹川千晶

今年度秋学期の授業で「Sophia-LMU COIL Session (Education and Development)」に参加し一番印象的だったことは、オンラインでの意見交換で見られたアメリカ人学生の「尊重」の姿勢でした。これまで留学経験や海外経験を何度かしてきましたが、欧米人の友人を持たない私は今回の取り組みに対し、どのような姿勢でディスカッションに臨めば良いのか、どのように自分の意見を発信したら、伝えたいことがうまく伝わるのかなど、少し不安を抱いていました。しかし、アメリカで教員を目指す彼らの視点からの考えや、異なる意見を尊重する語り方、例えば、自分の意見を伝える前に必ず他者の意見に賛同の意を示す、などの彼らの姿勢は自然と交流の場を良い意見交換の場にしてくれたような気がします。さらに、今回のセッションのために作成されたビデオでは、自分たちに向けられた現場に近い立場の人からのメッセージは、国際教育開発学の基本と複雑な教育の問題に向き合う人間の在るべき姿と姿勢を示してくれるものであり、自身の関心をより深めるものとなりました。異なる立場から教育学を学ぶ者同士の交流における多様性の存在はとても意義のあるものであると実感しました。



Sophia-LMU COIL Session (Education and Development)のFacebookグループが作成され、40名を越える学生が参加した。小松教授の主導のもと資料やビデオが公開され、日米両大学の学生達はFacebook上で交流を行った。



Loyola Marymount UniversityのDr. Musettiがモデレーターとなり、アフリカの教育支援に係っているNGO職員による講義ビデオが公開された。NGOでの長年のご経験から、開発途上国の教育課題における考え方を共有いただき、ページ上では、参加学生による活発な議論が行われた。



### COILを講義に導入すると 学生にどのようなメリットがありますか。

経済的理由や大学の履修カリキュラムの関係上、留学する機会が難しい学生に、日本にいながらにして米国の学生と共に学ぶ場を創出することができます。文化的背景の異なる多様な学習者が協働学習し、課題に対する多面的な理解や複眼的な思考力を習得することが可能になります。

### どのような講義で COILが活用されていますか。

本学では2018年度秋学期から導入が開始されました。国内外の大学では、以下のような目的に応じて、COILの導入が進められています。

- ・ 他国の学生との交流や比較による学習効果が期待できる場合
- ・ 米国の研究者からのレクチャーが効果的な場合
- ・ カリキュラム上留学が難しいが、映像・音声を活用した海外事例の学習が望ましい場合
- ・ 留学を希望する学生への準備をしたい場合
- ・ ゼミ単位での交流を図りたい場合、等

### COILを講義に導入するとは、 具体的にどのようなことですか。

実際の連携には様々な方法があります。ZoomやSkypeを利用してリアルタイムでディスカッションを行ったり、講義ビデオを交換・視聴しフィードバックをお互いで送りあったり、共通の課題に対して結果を比較する、といった方法があります。

### 毎週の授業で 接続しなければいけませんか。

学期中1回の接続からでも大丈夫です。講義予定や進捗に応じて、取り入れてください。

### 講義にCOILを導入したいのですが、 何をしたら良いかわかりません。

まずはグローバル教育センターにご相談ください。COILの導入方法に関するアドバイスや学内事例の紹介、米国連携10大学とのマッチング支援を行います。また、必要に応じてTAがサポートを行います(TAによるサポートは米国連携10大学との講義に限る)。

### 連携する相手は、米国連携10大学の 教員でなければいけませんか。

どの機関との連携であっても、グローバル教育センターにご相談いただければ、COILの導入方法に関するアドバイスやICTツールを提供します。(但し、米国連携10大学以外との連携は、補助事業の対象にはなりません。)

### 授業でCOILを取り入れたいのですが、 連携できる相手がいません。

グローバル教育センターでは、米国連携10大学の教員からの授業連携の希望を取りまとめており、マッチング支援を行います。

### 一緒にCOIL授業を行った相手には 謝金を支払うことはできますか。

できます。講義構築謝金として、授業内容に基づきCOIL予算より謝金を支払います(米国連携10大学の教員に限る)。

対象、金額等の制限がありますので、予めグローバル教育センターにご相談ください。

### COILを導入できる 学部や学科に制限はありますか。

ありません。どのような学問分野でも取り入れていただけます。

### ICTツールの使用に自信が無いのですが、 COILを導入することができますか。

できます。COILでは専門的なソフトウェアは使用しません。また、グローバル教育センターでは、ZoomなどのICTツールの提供や使用方法の支援を行います。



グローバル教育センターCOILチームがサポートします。COILについてご不明なことがありましたら、お気軽にご相談ください。

### 【学期のマッチングイメージ】

米国協定大学の多くは[8月下旬～12月中旬]、[1月中旬～5月上旬]の2学期で構成されており、COILの導入には学期の相違に注意する必要があります。

上智	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	COIL接続可能						COIL接続可能					
米国	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

※5月～8月に開講されているサマーコースでもCOIL接続は可能ですが、大学により開講状況が異なるため上記の図では省略しています。

学期  
 COIL接続可能